

令和7年3月31日  
校長

## 令和6年度 東京都立矢口特別支援学校 学校経営報告

今年度は、教職員の専門性の向上を図ることにより、教育内容の充実を図ることを重点とし、人権に配慮した指導の徹底と事故防止に努めた。また、風通しのよいコミュニケーションを取り、組織的な対応ができる学校づくりを心掛けた。

本校舎で行った2回目の矢口祭は、小学部1年生から中学部3年生までの体育館のステージで発表をすることができた。日頃の学習の成果を保護者の皆様に見ていただき、児童・生徒が達成感を味わいその後の成長につながった。

大田区・世田谷区内の副籍交流は144名が実施した。大田区立多摩川小学校との交流会は、新型コロナウイルス感染症5類移行後初めて再開できた。校内では、中学部の家庭科での調理学習や、給食の配膳の場面における係活動も再開した。脱コロナ対応を進め、児童・生徒の成長に有効な教育活動を効果的に展開していくことの大切さを確認した。

児童・生徒の指導を担う教職員の働き方については、外部専門家等との連携による専門性の向上やICTの活用等により、効果的・効率的な業務遂行につながるよう改善に努めた。令和7年度以降の下校時刻については、国が定める標準授業時数に近付けるため変更した。児童・生徒の在校時間が短縮されることにより、教職員の専門性向上や教材準備、共通理解を図る時間を確保し、教育の質を高め、保護者・地域の皆様と連携して児童・生徒の成長に向け取り組んでいくことを確認した。

### 1 今年度の重点目標に対する取組について

#### (1) 教育内容の充実

授業内容・指導方法の充実については、若手教員研究授業及び協議会、一人1回の公開授業の実施及び協議会を行った。

「社会に開かれた教育課程」の推進については、本校の「生活に役立つ4つの力」の育成を中心に、児童・生徒も教職員も意識的に取り組んでいる。挨拶の力は、コミュニケーションの基礎になる力である。「いつでも、どこでも、だれとでも」+「自分から」できることを目指し、検定を目標に小学部1年から中学部3年生までの児童・生徒が取り組んでいる。4つの力に加えて、「日常生活の力」を確実に身に付けること、「キャリア発達」の視点に立ったキャリア教育を進めていくことを再確認した。

東京都研究指定校による「言語活動及び読書活動の充実」の取組については、教職員が主体的・創造的に環境整備を進めました。読書旬間の実施、お話し給食の実施、図書委員会活動等々の充実した取組を展開し、図書館が「矢口ライブラリー」として児童・生徒にとって身近な場所になり、本や絵本に興味をもつ児童・生徒が増えた。

#### (2) 外部専門員との連携・充実

今年度は、自閉症スペクトラム専門家、作業療法士、言語聴覚士、授業アドバイザー、職業教育指導、心理専門家、司書、特別支援教育心理士等18名の外部専門家と連携し、ケース検討、アセスメント結果の活用、研修会の実施などを行い、指導に充実を図ることができた。

#### (3) 施設・設備の充実と安全対策

令和5年度から本校舎を使用し課題があった個所の修繕や使用方法の改善を図り、事故防止を徹底した。新グラウンドについては、当初令和7年2月中旬から使用可能となる予定だったが、地中障害物が発見されたことにより、工事期間が延長となった。令和7年度4月から安全に使用できるよう準備を進めた。

## 2 数値目標に対する取組状況

★学習指導 分かる授業、できた喜びを感じられる授業の充実			記録
1	分かりやすい教育環境の整備（教室環境整備マニュアル実施、Forms を活用した学期1回の点検）	⇒教室環境整備マニュアルに基づいたチェックリストを作成しForms にて各学級で確認した。	○
2	全校同一指標でのアセスメントを実施（太田ステージ、鳥の絵課題） 入学後の実態把握のためのアセスメント（小：NCプログラム、中：J★Skeps） アセスメントに基づいた課題設定と個別指導計画の作成	⇒合計 451 名（太田ステージ鳥の絵課題 335 名、NC46 名、J★Skeps 70 名）、アセスメントに基づいて児童・生徒の実態を把握し個別指導計画に反映した。	○
3	単元案の蓄積・充実・教材ライブラリーの充実	⇒単元案、教材ライブラリーについては、教科や学年によって差がある。	○
4	漢字検定の実施 3 回	⇒年 3 回実施し、年間 13 名が受検	○
5	読書活動週間 1 回	⇒読書旬間（13 日間）実施	◎
6	教材と単元（題材）集の各作成（ICT 教材を含む）一人 1 点以上（年度末校長室前掲示） 教材開発室の内容充実と管理 アセスメントに基づいた教材作成	⇒校長室前掲示は端末内に保存に変更した。外部専門家と連携したアセスメントや教材作成研修を生かした教材作成を進めた。教材開発室の確保、機材の整備に努めた。	○
7	教員の専門性向上のための外部専門員の活用（年間 80 回）	⇒外部専門家（自閉症スペクトラム専門家、作業療法士、言語聴覚士、授業アドバイザー、職業教育指導、心理専門家、司書、特別支援教育心理士、等 18 名）と連携した取組 129 件	◎
8	食育活動の推進 各学年 1 回以上食育授業実施	⇒年 1 回実施、「お話給食」を 5 回実施	○
9	東京オリンピック・パラリンピック教育のレガシーの実施に向けてのスポーツと芸術文化活動の推進と国際理解の充実	⇒年間指導計画に盛り込み実施	○
10	矢口祭等における発表内容及び発表方法等を工夫した取り組み内容の充実	⇒全学年普段の学習の成果を体育館の舞台上で発表、児童・生徒の達成感と保護者の満足感高	◎
11	新グラウンド使用に向けた計画的な実施	⇒グラウンドの工事が延長となり使用開始は令和 7 年度の 4 月から変更	△
★生活・保健指導 安全・安心な教育環境の充実と規範意識の向上			記録
12	「一人通学の力」の向上を目指した通学マニュアルの活用と改善	⇒現在 33 名が（付き添い含む）実施。また、一人通学のルールについて教材を作成した。	○
13	いじめ防止（アンケート 3 回）、体罰禁止を推進。	⇒年 3 回アンケートを実施、個別には聴き取りも実施した。また、年 3 回のいじめに関する研修を実施した。	○
14	外部講師等を活用した人権研修会の実施	⇒8 月 27 日に弁護士を招聘し実施	◎
15	緊急時対応マニュアルの見直し	⇒年度途中の更新となってしまった。次年	△

		度は4月初めの更新を徹底する。	
16	笑顔の挨拶の励行(児童・生徒・教職員)、校内あいさつ検定の実施	⇒335名実施。教職員がロールモデル励行を率先垂範。検定内容等のリニューアルが課題	○
17	校内防災の日(3月11日)設定、毎月の避難訓練・安全点検の実施	⇒避難訓練を月1回以上実施、安全点検も実施	○
18	スクールバス保護者会(年1回)、スクールバス乗務員研修(月1回)、令和7年度に向けたスクールバスコースの検討と改善	⇒SB保護者会1回実施、SB研修会に「心のバリアフリーすすめ隊」からの講師を招き実施、児童生徒数増加や地域からの意見に対応	○
19	SOSカード・ヘルプカード等の使用方法の指導	⇒新入生に向けて使用方法の説明を実施した。また、セーフティー教室でSOSの出し方を学習	○
20	学校保健計画及び「保健・給食指導の手引き」の活用推進・改善(年1回以上)	⇒実態や変化に合わせて更新	○
21	学校保健委員会の内容充実・評価・改善(年1回以上)	⇒保護者講演会を1回実施、3月に校内委員会を実施し今年度の評価実施	○
22	給食だよりの発行・内容充実(月1回)	⇒月1回実施、「お話給食」についてHP・Xで配信	○
★キャリア教育 自立・社会参加を捉えた教育の充実			記簿
23	生活に役立つ4つの力の育成(挨拶の力、一人通学の力、役割の力、掃除の力) 標語の掲示(全クラス他)、個別指導計画への目標掲載	⇒個別指導計画への目標掲載	○
24	外部専門員による清掃研修の実施	⇒ビルメンテナンス協会より4名来校し、中2年生徒にテーブル拭きについて指導、中2年保護者向けに1回	◎
25	地域での販売実習実施(中学部 作業班)	⇒大田区区役所での販売5回(中3)、矢口祭で販売(中2)	◎
26	矢口校内清掃検定の実施(中学部全学年)	⇒中学部生徒全員実施 (1年はテーブル拭き、2年生はテーブル拭きとダスタークロス、3年生はテーブル拭きとダスタークロスについて実施)	◎
★研修・研究 全校的な専門性の向上			記簿
27	外部講師と連携した授業内容・指導方法の充実並びに学習評価・改善の確立、校内研究会、研修会の充実(年1回実施)	⇒年4回実施(講師の講演)校内研究月1回実施	◎
28	特別支援学校教員免許状取得率の向上	⇒84%に上昇	◎
29	新転任者のOJT体制による授業力の向上、授業研究協議会の実施、全教員の公開授業、自己申告面接とのリンク(一人1回以上、参観授業1回以上)	⇒公開授業は対象者全員実施、授業参観は動画視聴を含めて一人1回以上実施	◎
30	ICT機器活用研修の実施、児童・生徒一人一台配置のGIGAスクール端末を活用した	⇒夏季休業中に研修実施。情報部員によるGIGA端末を活用した公開授業の実施	○

	指導内容・方法の事例共有と指導力向上		
31	東京都研究指定校「言語活動及び読書活動の充実」	⇒学校図書館の環境整備、全校的及び各学級での各種読書活動を展開、本や絵本への興味を高めた。	◎
★センター的機能 つながりをお大切にした特別支援教育の推進			記簿
32	ホームページ等の内容充実、更新30回以上	⇒ホームページは200回程度更新を行った。Xによる配信を開始した。定期的な配信、内容の充実が課題。	○
33	教員のPTA等の交流活動、地域行事等への参加（各連携1回以上）	⇒「絵本フェスティバル」や「フランス料理を楽しむ会」での挨拶、矢口地区自治会連合会や青少対策矢口地区委員会等の行事等へ管理職が参加	○
34	学校生活支援シート（個別の指導計画）作成、支援会議（専門家・地域関係諸機関との連携・充実）の実施20回以上	⇒関係者会議、地域関係諸機関との連携30回	○
35	区教育委員会連携によるエリアネットワーク会議5回以上、巡回相談40件以上、講演・出前授業8回以上	⇒エリアネットワーク会議8回、巡回相談20件、講演・出前授業10回	○
36	副籍制度の充実と活用	⇒67名が直接交流を実施、間接交流は77名	○
37	大田区教育委員会連携による特別支援教育の充実	⇒研修会講師派遣9回	○
38	大田区「ものづくりフォーラム」の作品展示参加 1回	⇒1月18日展示実施、校長が開会式に出席	○
39	学校開放事業は、ボランティア講座・本人講座3回以上の実施	⇒各3回実施、本人講座7名、ボランティア養成講座24名受講	○
40	学生向けボランティア受入	⇒宿泊行事4回に9名受入れ	○
41	学校見学・体験入学の受入	⇒学校見学会は101名参加、体験には82名が参加	○
42	一日体験入学・入学説明会の充実と評価・改善（年1回以上）	⇒人数が大幅に増加したが、グルーピングや児童・生徒の動線を工夫することで、例年通りの内容で実施	○
★ 防災・安全対策 危機管理体制及び緊急時の安全対策の充実			記簿
43	物品の廃棄、整理整頓。校内整備・廃棄年3回。	⇒備蓄倉庫を整理。備蓄食料については、3日分9食ごとに分配	○
44	学校安全委員会 8回（防災教育推進委員会2回を含む）	⇒実施回数は今後整理	○
45	地域・保護者との防災等に関する研修	⇒発災時のトイレ事情と対応について教員向けの研修を実施	○
46	宿泊防災訓練の実施と防災学習の充実	⇒中学部1年生が宿泊防災訓練を実施した。体験的の学習、視覚支援の充実を図った。	○
47	ヒヤリハット・アクシデント報告・分析による事故防止	⇒ヒヤリハット・アクシデント報告の体制を整えた。	○

48	安全指導日「事故・けが0（ゼロ）DAY」の設定と「事故防止強化デイ」（毎月17日）毎月各1回	➡安全指導日に朝全職員に事故防止について周知	○
49	地域と連携した総合防災訓練、福祉避難所開設訓練実施とBCP充実	➡総合防災訓練、福祉避難所開設訓練において地域、関係機関と連携した訓練を実施、危機管理マニュアル内にBCPを掲載	○
★ 総合力の発揮 組織的な対応と効率的な学校運営の推進			記簿
50	OJTによる業務遂行、マネジメントサイクルの活用による進行管理（PDCA）の徹底、ミドルリーダーの育成	➡役割の発揮を継続	○
51	サービス事故防止研修及び個人情報研修及び情報機器の整理・整頓、自己管理、点検月1回並びに毎週金曜日のクリーンデスクを徹底	➡継続が必要	○
52	東京都特別支援教育推進計画第3次計画に基づき、校舎等の環境整備等検討	➡令和9年度の第二校舎の再設計は終了	◎
53	教職員のライフ・ワーク・バランスに向けての取り組み・健康管理、組織的な学校運営を図る意識改革（報告・連絡・相談の徹底）。閉庁日5日間及び定時退庁ウィーク（長期休業期間）の設定	➡夏季休業日中に学校閉庁日を5日間設定、長期休業日中は毎日を定時退庁日とした。会議時間の短縮等の意識改革が必要。	○
54	経営企画室連携による適正な予算執行の指針・四半期ごとの点検	➡適確な仕様作成によるセンター請求及び執行率向上	○
55	エネルギー使用量状況報告による節電等の実施（電気、ガス、水道使用量等）	➡窓ガラスへの断熱塗料塗布、トイレ自動洗浄設定の改善を実施	○
56	合理的配慮を含めた校内環境整備の維持と継続	➡4Sの継続が必要	○

### 3 学校評価の結果について

#### (1) 保護者の評価

「地域連携」を除き、各項目ともに、「そう思う」「まあそう思う」とする回答が80%以上を占めた。本校の教育活動全般について、おおむね高い評価を得た。また、他項目の課題に関して概観してみると、「体罰等への取組「キャリア教育の充実」「地域連携」「HPなどによる情報発信」について、「分からない」とする評価が1割を超えており、保護者にも見える形での取組が期待されていることが分かった。

#### (2) 教員の評価

「業務の適正分担」「ライフ・ワーク・バランス」を除き、各項目ともに、「そう思う」「まあそう思う」とする回答が80%以上を占めた。学校経営計画に基づく各取組について、全体をとおして高い評価であることが分析結果をとおして明らかとなった。「業務の適正分担」では、昨年度72%から今年度63%と下がっていること、「ライフ・ワーク・バランス」では、76%から75%で横這いとなっていることから、働き方の改善について引き続き取り組んでいく。また、いくつかの項目について「分からない」の回答があった。「分からない」状況の改善に取り組む必要がある。

#### (3) 学校経営計画に基づく各領域及び各項目の評価者間（保護者及び教員）比較

「地域連携」については、本格的に再開し始めた副籍への保護者の期待が高いことがうかがえた。また、福祉避難所開設訓練や総合防災訓練などについては、地域の方と連携して行っていることの発

信が課題である。分かりやすい情報提供を工夫していく。

「キャリア教育の充実」については、毎年差が大きい項目であるが、保護者の評価は昨年度より8ポイント上昇し、88%が「そう思う」「まあそう思う」と回答しており、全体の傾向として改善している。引き続き分かりやすい情報発信をしていく。

「体罰への取り組み」「引継ぎを大切にした教育」は、保護者の「学校生活に見えない部分も多い」というコメントから学校で行われていることが十分に伝わっていないと推測された。連絡帳や電話での意思疎通には高評価を得ており、実際に校内を知るための機会を多く作る必要がある。情報発信に加えて、特別支援教育の専門性を発揮する日々の授業の様子を、直接見ていただく機会を増やしていくことが改善になり、保護者と連携し、指導の効果を高められると考える。

また、「各種指導計画の作成」については、保護者に比べて教員の評価が低くなっている。今年度は外部専門員を増員したことや研修を充実させたことで、教員が自己の専門性を振り返るための機会になったことが要因の一つであると考え。保護者の方にはおおむね満足していただいております、引き続き教員の専門性を高める取組を進めていく。

#### 【学校評価結果と肯定的評価（「そう思う」「まあそう思う」）の割合について】（数値の単位は%）

項目	保護者	教員	備考	項目	保護者	教員	備考
学校経営方針	98	97		保護者への対応	98	100	
人権への配慮	99	98		個別面談等の充実	97	97	
呼名の方法	95	98		引継ぎを大切にした教育	87	94	▲
体罰への取り組み	89	96	▲	基本的生活習慣	97	99	
来校者へのマナー	100	99		キャリア教育の充実	88	97	▲
個人情報の管理	95	100		4つの力の指導	96	99	
個に応じた指導計画	96	94		校内整備	99	97	
各種指導計画の作成	99	93	▲	防災教育	94	94	
学習環境	97	99		感染症対策	95	99	
教材教具の開発	96	97		地域連携	70	83	▲
意思疎通	98	100		情報発信	82	90	▲

なお、経年比較では、保護者、教員それぞれに項目ごとに見ていくと、毎年「キャリア教育の充実」と「情報発信」でほかの項目に比べて評価が低い傾向にあったが、今年度はそれぞれ12ポイント、8ポイント上昇しており、改善が見られた。「情報発信」についてはX（旧Twitter）の活用を再開したことや、毎月の学校だよりにXやホームページのURLを掲載するようにしたことが評価されたと考えられる。

#### （4）今後に向けて

##### ① キャリア教育の充実

本校は、小学部と中学部のみを設置している特別支援学校なので保護者、教員共に高等部卒業後のイメージをもちにくい傾向がある。小学部では日常生活を中心に、中学部では職業・家庭や作業学習を中心に卒業後のイメージをもって保護者と共に取り組んでいくキャリア教育を目指していく。そのためには、どのような手順で、何に気を付けて指導を行っているのか、学校と保護者で共通理解をしながら進めていく。

##### ② 地域、保護者との連携と十分な情報発信

コロナ禍で滞っていた開かれた学校づくりを本格的に再開する時期にきている。保護者や地域の方に本校での取り組みを知ってもらうための機会を作っていく。今年度再開した学校公開や地域の小学校との交流のようにコロナ禍で中止していた取り組みをより良い形で実施していく。また、個別面談や授業参観の機会に保護者に根拠をもって学校の取り組みを説明できるよう、学校全体の教員の専門性及び教育の質を向上させていく。

## ③ 教員のやりがいを高めること

学校の経営方針を浸透させ、組織の一員としてやりがいを感じられるよう教員の取り組みを後押ししていく。また、特別支援学校の教員としての専門性を高め、保護者への十分な説明ができるよう、教員の研修をさらに充実させていく。

## 4 次年度に向けて

児童・生徒数は、小・中学部設置校となってから増加の一途を辿っており、さらに、令和7年度からの学区拡大に伴い、引き続き年次進行で児童・生徒数が増加していくことが予想されている。令和7年度の小学部新1年生は50名を超える見込みである。

令和7年度は、一部を除いてグラウンドを使用することができるようになる。令和8年度には今後建設予定の第2校舎と本校舎からの接続及び体育倉庫等の工事が残っており、第2校舎の完成予定は令和9年度である。第2校舎が完成するまでも、児童・生徒数の増加が想定され、現存の施設の中で安全な教育環境を整備していく必要がある。

児童・生徒が自立と社会参加を実現できるようキャリア教育の視点から教育内容の充実を図る必要がある。児童・生徒が自ら望む将来を実現できるよう、小・中学部設置校である良さを生かし小中一貫した指導を進めていく。

また、共生社会の実現に向け、地域の中において本校の役割を發揮していくことが求められている。組織的な専門性の維持・向上を継続しながら、保護者、地域・関係機関との連携を深めていく。学校評価の結果を踏まえ、以下の項目を重点目標とし学校運営を進めていく。

## 【令和7年度の重点項目】

## (1) 専門性の維持・向上

外部専門家との連携、外部講師による研修会の実施

一人1回公開授業の継続、年次研修対象者の研究授業及び協議会

若手教員の育成を通じた中堅教員の指導力の向上

令和9年度の第2校舎完成に合わせた教育課程の検討

## (2) キャリア教育の充実

小学部：日常生活の指導の充実

着替え、靴の履き替え、排せつ、給食の準備・片付け、食事、手洗い・うがい、  
通学・移動・歩き方等

中学部：作業学習等の充実

キャリア発達に必要な力の育成

生徒数増加に応じた学習場所と内容

共 通：生活に役立つ4つの力の更新

## (3) 保護者・地域と連携した指導の充実・情報発信

保護者対象の授業参観週間5日間×年3回の実施

放課後等デイサービスとの連絡会等の開催 年2回程度

Classi（クラッシー）等のデジタルを活用した効果的な保護者への連絡

HP・X、グラウンド角の掲示板の活用等

矢口地区との連携（矢口子どもフェスタへの会場提供）

地域探索、総合的な学習の時間の在り方、地域との交流の取組

各種美術展等への出展

## (4) 教職員のやりがいと働き方

会議時間の短縮、効率的な会議設定、主任による進行管理、デジタル活用

様々な働き方と役割の發揮、参画意識の向上

やりがいがもてる業務分担、適材適所の役割分担